

感染症 ひとくち情報

ヘルパンギーナが警報レベルになりました!

2019年8月1日
東京都健康安全研究センター

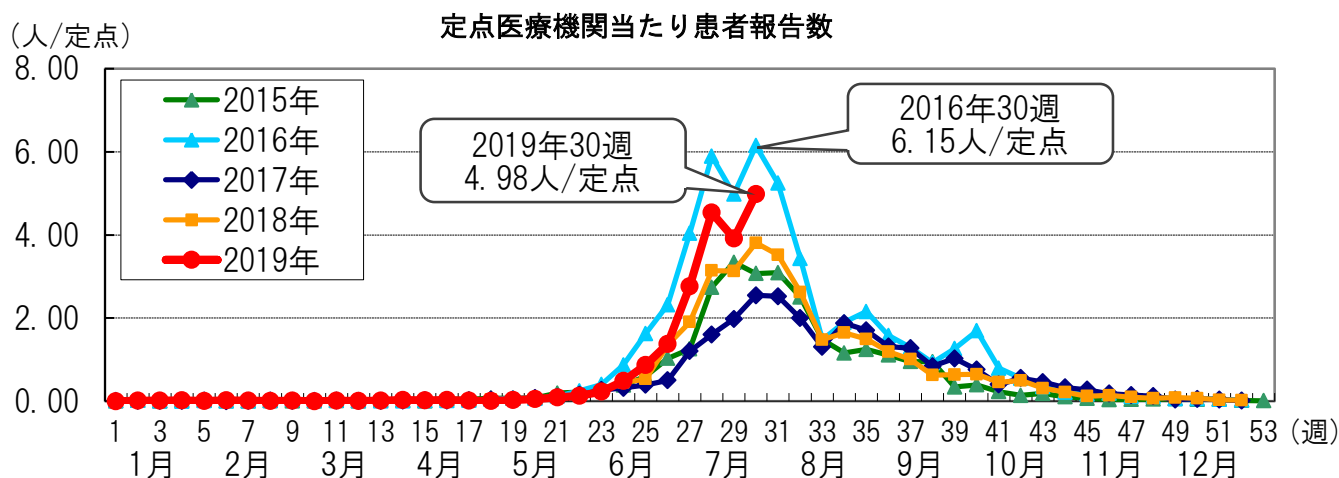
1. ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは、エンテロウイルス属のウイルスによって引き起こされる感染症で、乳幼児を中心に夏に流行する感染症です。主な症状は、38度以上の突然の発熱に続き、口の中にできる水ぼう（小さな水ぶくれで、痛みを伴います）が1週間程度続きます。食事や水分がとりにくくなり、脱水症状をおこすことがあるため、水分補給を心がけることが大切です。治療は対症療法が中心になります。



2. 発生状況

2019年第30週（7月22日から28日）に都内小児科定点医療機関から報告された定点当たり患者報告数は4.98人。患者報告数が警報レベルを超えた12保健所の管内人口の総計が都全体人口の44.9%となり、基準である30%を越えています。



3. 感染経路

ウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、手についたウイルスが口に入ったりすることで感染します。症状がおさまった後も、患者さんの便の中にはウイルスが含まれます（2～4週間）ので、トイレ使用時やオムツ交換の際には注意が必要です。

4. 予防について

感染予防には、こまめな手洗いが有効で、トイレの後やオムツ交換の後、食事の前には手洗いを心がけ、集団生活ではタオルの共有は避けましょう。また、咳やくしゃみをする時には口と鼻をティッシュ等でおおう等、咳エチケットを心がけましょう。

